キャラクター名
ルルーガ・ルゥ

プレイヤー名

メインクラス	シーフ	**Lv.1:**		**レベル**	4
サポートクラス	セージ	**Lv.1:**	セージ	**性別**	雄
称号クラス				**年齢**	21歳
種族	ヴァーナ			**境遇**	義理の親
出自（効果）	任意：孤児			**目標**	運命

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	11	10	14	9	12	6	9
ボーナス	3	3	4	3	4	2	3
クラス修正	0	1	1	1	2	0	1
他修正							
能力値	3	4	5	4	6	2	4

HP	50
MP	46
フェイト	6

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	ファインダガー	至近	0	6	0	0	0	0	0
左手									
頭部	ドミノ					2			
胴部	パッデッドアーマー					7			-1
補助	ファインバックラー				+1	4			-1
装身具	手入れ道具			+1					
能力値			4	0	5	0	2	11	8
スキル								1	5
その他									
総計(右)			4	7	6	13	2	12	11 m
総計(左)			4	1					
総計(両)									
ダイス数			3 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	6			6	+ 3 d
トラップ解除	4			4	+ 2 d
危険感知	6			6	+ 3 d
エネミー識別	4			4	+ 3 d
アイテム鑑定	4			4	+ 2 d
魔術判定	4			4	+ 2 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定	4			4	+ 2 d

所持品	
冒険者セット	
ベルトポーチ	
バックパック	
HPポーション	
MPポーション	
MPポーション	
MPポーション	
サファイア	

現在重量： 10		
最大重量： 18	所持金： 0	預金・借金：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
オーバーパス	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果： 狼族、移動力+5m、行動値に+1								
ワイドアタック	4	4	メジャー	武器	範囲(選択)	命中	M5	
効果： 武器攻撃を行う。2体以上を対象に取ったらダメージ+[SLx2]								
ピアシングストライク	2	5	特殊	---	自身	自動	M3	
効果： ﾀﾞﾒｰｼﾞﾛｰﾙ直前/武器攻撃ﾀﾞﾒｰｼﾞ+[(SL)D]								
スティール	2	3	特殊	---	自身	自動	ｼﾅﾘｵSL回M4	
効果： ﾀﾞﾒｰｼﾞﾛｰﾙ直後/白兵攻撃時ﾄﾞﾛｯﾌﾟ品決定ロール								
タクティクス	1	6	セットアップ	20m	範囲(選)	知力	M5	
効果： R中【行動値】+[SL*2]/自分不可								
エンサイクロペディア	1	---	セットアップ	---	自身	自動	M1	
効果： ｾｯﾄｱｯﾌﾟでｴﾈﾐｰ識別								
コンコーダンス	1	---	パッシブ	---	自身	---	M1	
効果： 対象:場面(選)/射程:視界 ノ全的へ識別								
トゥルースサイト	1	---	パッシブ	---	自身	---	M1	
効果： 識別成功時[物防/魔防]判明								
アームズマスタリー	1	---	パッシブ	---	自身	---	M1	
効果： AM:短剣/命中判定+1D								
ファインドトラップ	1	---	パッシブ	---	自身	---	M1	
効果： 罠探知+1D、探知失敗時罠作動無効								
★サーチスキル	1	---	パッシブ	---	自身	---	M1	
効果： 危険感知+1D								
モンスターロア	1	---	パッシブ	---	自身	---	M1	
効果： 敵識別判定+1D								
効果：								
効果：								
効果：								

■ギルド：ピース・オブ・ゴールド/PASS：gold
https://charasheet.vampire-blood.net/3213345

■プロフィール
「そこいらの手癖の悪いコソ泥と違って、俺は昔から”足癖”が悪いんでな。」「ルルって言うなバァーカ！　ガルって呼べバァーカ！　バァーカ！！」
「これだから猫族は…ミルクでも飲んで寝てろタコ。喧嘩は雄(ヤロー)の仕事だろうがよ。」

出生後すぐ捨てられたらしく、幼少期は孤児院教会で育てられた。
親代わりのシスターは、ルゥを含め種族を選ばず行き場のない子供達を養ってくれていた。
甘え方の分からなかったルゥは、疾風の様な脚力と生き抜く為の賢しさを利用し孤児院の”悪ガキ”として有名になっていく。
ルゥが12歳の時、教会が取り壊される事が決定した。原因の一端は、ルゥの被害にあった町の人々の声だった。
自分の性で住む家が無くなる。子供ながらに自分のしでかした事に心が潰れそうになった。
それでも、シスターはルゥを叱らなかった。「支えてあげられなくてごめんね。」そういう彼女に、どう答えれば良いのか分からなかった。
愛され方が下手だった。甘え方が下手だった。気にしてもらいたかったのかもしれない。怒られたかったのかもしれない。
心の整理のつかぬまま、孤児達はそれぞれの道を歩むことになるのだった。

街に出てすぐ、ルゥは冒険者となる。仕事の種類と稼ぎの良さ、ビジネスライクな関係性構築という側面と、自分の特性を生かせると思ったからだ。
ある程度仕事をこなしていた頃、より収入を安定させる為にギルドを探していたルゥは、とあるギルドに目を付けた。
街中での買い物の羽振りの良さ、緩そうな雰囲気。自分に利のある場所を作るには丁度良さそうな集団だと思った。
暫く様子を観察する内に気付いた。メンバーの1人、恐らくヴァーナと思しき少女に、シスターの面影があることに。
付き添いの体躯の良い女も、親の様に温かい目でそれを見守る男。彼らにも、どこか孤児院の面々の面影を感じた。
そして何より、行動やギルドのアレコレがどうやら思った以上に適当そうだった。他人である自分が心配してしまう程度には。